

翠風園 ひかり通信

Vol. 2 春号



- 発行月： 平成19年4月
- 制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会
理事長 野水 清志
- 所在地：〒950-1236
新潟市南区高井東2丁目13番33号
- 連絡先：025-362-7600



理事長 ご挨拶

理事長 野水 清志



社会福祉法人 正瑛会の設立は、平成十二年の春、今は亡き父の故郷に、何か皆様のお役に立つことを、との話が始まりました。父の正司は三条市の生まれで、大正十五年に十歳で東京に奉公に出てから、七十四年間の働き詰めの人生活でした。その父が白根に倉庫用の土地を買い求めたのは、昭和四十八年でした。私はこの土地を活かして、地域の皆様にご奉仕することが、故郷への亡父の報恩・感謝になると考えたのです。それまで、放置され、荒れ野原であった土地を整備して、高齢者介護施設を建設出来ましたことは、偏に地域の方々のご理解と、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

私は三十五歳のころから、人には魂があって、魂は繰り返して生まれ変わって、肉体という不自由な衣を纏って修行しているのだということを、考え始めました。爾来、二十有余年に亘っての学びの中から、魂の存在を確信致しました。

丁度、社会福祉法人 正瑛会の発足当時、国際連合の世界保健機関から介護福祉社に対して、スピリチュアル・ケア（魂のケア）の重要性が提唱され、私が学ばせて戴いた「魂の存在」を前提にした高齢者介護が世界に発信されました。現場で実際に利用者様に接する職員の間にも、スピリチュアル・ケアの考え方が徐々に浸透し、日々それを念頭において実践に励んでいます。

社会福祉法人 正瑛会の経営理念は「報恩・感謝・奉仕」とし、ご利用者様の「魂のケア」を主題として、地域の皆様のご理解とご協力を戴きながら進んで参る所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

スピリチュアル・ケアの実践

理事長 野水 清志

平成十三年年末の社会福祉法人正瑛会設立認可に始まり、十四年十二月のテイサービスセンター翠風園の開設から五年目に入りました。正しく、「光陰矢の如し」の感を強くしている今日この頃です。

冒頭の御挨拶文の中でも述べさせて戴きましたが、私は「人間如何に生きるべきか」ということを、追求して参りましたが、この数年は大学院の通信教育機関で人間科学なども学んでいます。また、米国のW・グラッサー医学博士が提唱している「人間の心と体を分離せず、心の満足度が現実を変える」という心理療法を日本リアリティー・セラピー協会において二年半の間学ばせて戴いて、心理療法士補の資格を戴きました。「人様の命(人生)を預かる重要な仕事をさせて戴いている責任感」から、私自身、出来るだけの勉強をさせて戴いて、職員ともども、利用者様とご家族の皆様にご飲んで戴くことが「報恩・感謝・奉仕」の実践と申します。

翠風園の開園の前後のころWHO(世界保健機関)は高齢者介護に対して、特にスピリチュアル・ケアの重要性を提唱し始めました。スピリチュアル・ケアとは何でしょうか。スピリチュアルとは「魂・霊」などの事を指し、ケアとは「介護」「癒し」のことです。従って、WHOは高齢者介護に対して「魂の癒し」が必要であると提唱したのです。

「魂」は、見えない存在であり、なかなか感じることの出来ない存在なのですが、手探りで、職員の皆さんへ、心を込めた「魂の介護・癒し」の実践をお願いして参りました。

日常活動では、正瑛会の経営理念「報恩・感謝・奉仕」の下、「翠風園心得」などの唱和や、朝礼・終礼等の機会を使つての「気付きや反省」を学びの材料にして、利用者様に喜んで戴く為に頑張つて参りました。

また、食事は最も重要なこととして、食材や料理法を工夫して、手作りにこだわり続け、グループホームでは玄米食なども取り入れております。味に付きましては、私が試食をさせて戴き「合格点」を付けさせて戴いております。



平成十八年度の介護保険法の改正に伴いまして、グループホーム翠風園では「看取り」を検討させて戴く事になりました。この事によって私たち職員は「人の命」というものを、より深く認識しなければならず、昨年十月末には当園におきまして福島大学経済学部大学院の教授であられる飯田史彦先生から「新時代におけるスピリチュアル・ケアの意味と方法」というご講演を戴きました。飯田先生は人間の価値観やメンタルヘルス(精神の健康―筆者解説)について研究する経営心理学者であり、経営学博士であります。「人生の意味や価値」についてのご講演活動を通じて、医師・看護師の研究会「生きがいメディカル・ネットワーク(医療連絡網―筆者解説)」の顧問をお勤めになる傍ら、数多くの「生きがい論」「人生論」を執筆して来られました。

飯田先生はご講演の中で多くの実例を挙げ、「魂が人間に与えている力」をご説明下さいました。特に一昨年の年末には、ご自身が臨死体験をされ、「ツインソウル(双子の魂―筆者解説)」という、ご著書の中で「魂」とは、「霊」とは、「あの世」とはなどの根源的な問題について発表しておられます。

この度の飯田先生のご講演により、今まで漠然としていたものを具体的に、科学的に理解を深めさせて戴きました。これからは「魂の働き」を十分に理解しながら、より高度な「スピリチュアル・ケア」を実践させて戴きます。

また、社会福祉法人正瑛会が翠風園での「スピリチュアル・ケア」の実践を通じて、数々の学びをさせて戴いていますが、この度の「ひかり通信」の発刊を期に、今までご支援下さいました沢山の方々に、翠風園での高齢者介護事業での学びの成果をご報告し、利用者様やご家族の皆様へも、翠風園での出来事をお知らせさせて戴くことでご理解を深めて戴く便とし、今後も尚一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

「ひかり」とは太陽の光や眼には見えないけれど、すべてのもの間にある存在です。私たち翠風園の職員はいつもこの「ひかり」の存在を大切にしながら、真心のひかり、愛のひかり、感謝のひかり、を送り続けて参ります。

最後になりましたが、社会福祉法人正瑛会と翠風園の職員一同は、利用者様、ご家族の皆様もご安心して戴けます様に、努力・研鑽を継続致しますことをお誓い致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

デイサービスセンター

デイサービスの今年のひな祭り会では、今年度生まれ変わったら、という事が利用者様との間で話題になり、利用者様が「次の人生の目標」を、お一人ずつ短冊に書いて下さいました。

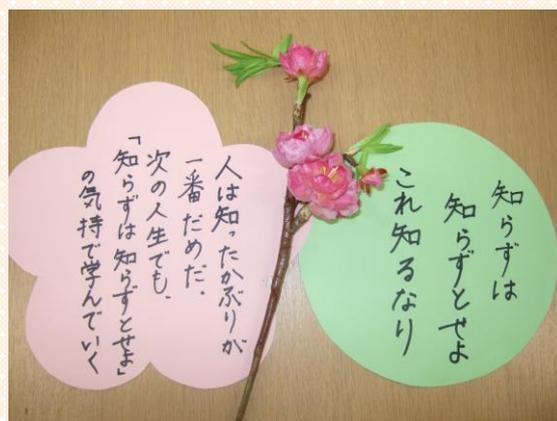
二月の節分祭では例年に引き続き、利用者様から「先人の皆様への感謝」の言葉を短冊に書いて戴きました。その短冊の中にあるお言葉の数々は、非常に奥が深いものでございました。

そこで利用者様お一人お一人より、これまでの人生を振り返って戴きながら、節分祭の短冊をもとに、新たにひな祭り会の為に書いて戴くことができました。

皆様から人生のお話を聴かせて戴き、驚く事柄ばかりで、何も知らない私達にとりましては、とても有り難い機会でした。

この様な有意義な時間を戴き、私達職員の方の精神を培って下さり、本当に有り難うございました。

当日は、デイサービスの職員が順番に、利用者様への感謝の想いをお話し致しました。その際に流された利用者様の止めどない清らかな涙を、今でも忘れられません。



左はひな祭り会：右は節分祭の短冊

利用者様のお一人であるA様が、節分祭の際に書いて下さった短冊は、A様が今日まで大切にされてきたお言葉だったそうです。A様がこの言葉を始めて知った時、「人生はこれに尽きる！」と確信されたとお話下さいました。常に謙虚なお姿に、深く感銘を受けました。

また、ひな祭り会の短冊では、A様の揺るぎの無いお気持ちを記して戴き、人生の大先輩のお姿を、私達職員も見習わせて戴きたいと思えます。



左はひな祭り会：右は節分祭の短冊

又、B様は節分祭での短冊に、迷わず筆を取られて「お天頭様」に感謝の言葉を書いて下さいました。当初私達職員は、先人の方々の感謝が何故、お天頭様への感謝なのか、理解できておりませんでした。

しかし、B様は次の短冊にて、偉大なるお天頭様の存在を、職員にお示し下さったのです。本当に忘れてはならない尊いことをお教え下さり、有り難うございました。



皆様の短冊が、桃の花のようです。

ひな祭りの会



今年も、雛段を飾って華やかです。

利用者様への感謝の言葉

滝澤 今日子

今回のひな祭り会という行事を通じて、皆様から貴重なお話を聴かせて戴き、心から感謝申し上げます。

聴かせて戴いた一つ一つのお話が、深く胸に残っています。

この度、これまでの人生を振り返って戴いて、「良いことも悪いこともあったけど、今はとても幸せです」と仰っていた方や、また、何人かの方々のお話から「自分の想いに正直に生きる事」の大切さを、気付かせて戴きました。

皆様からこんなに沢山の事をお教え戴けるのは、良いことも悪いことも経験して学ばれ、今を精一杯に生きて来られたからだと思いました。

私は今、何の不自由もなく、恵まれた環境にいられるというのに、何かあると理由をつけて、「自分には出来ない」と諦めたり、失敗を恐れて何も手が出せないという処がありました。でも、今のままでは、私が自分の人生を振り返った時、とても情けない人生かもしれないと思いました。何もしなければ、何も感じず学ぶ事も出来ません。

皆様のお話が、「自分の心に正直に、恐れないで何でも挑戦してみなさい。失敗も苦しみも、何でも味わってみて人の心の痛みを知ることが出来たら、それは何物にも代え難い宝物なのだから…」と、臆病な私の背中を押して下さっているように思いました。

皆様の次の人生への目標をお聴きするということから、今の私にとっても必要な目標を教えて戴くことが出来、本当に有り難うございました。

これからは、積極的に何事も物怖じしない、「滝澤今日子」に生まれ変わります！

どうぞ宜しくお願い致します。



グループホーム



今回は、実際の出来事から私達職員が学ばせて戴きましたことを、掲載させて戴きます。

ほんのさっきまで、一緒に楽しく語らっていた人とも、突然の別れがやってくる場合があります。

グループホームに入居なさっていた入居者男性の方が急変され、救急車で搬送された病院で亡くなられました。この方は、七十歳後半の方で、ご家族はなく一人暮らしでした。実の弟さんが面倒を見ておられ、この方は歩行が不自由でいらっしやいましたが、まことに穏やかで、何をしても「有り難うございます」とお礼を言われる方でした。

ある日の夕食が終わった直後、この方が苦しそうに前屈みになられているのを職員が発見し、食べ終わられた直後だったため、てっきり食物を喉に詰まらせたのだろうと思いましたが、そこですぐに救急車を手配すると同時に、救命救急の経験がある職員が詰まったものを吐かせましたが、嘔吐物の中には喉を詰まらせるような固形物が全く見あたらず、そのうちに救急車が到着して救急隊員に代わって戴きました。

一時は心肺停止状態だったのですが、救急隊の方達の方で蘇生し、病院に運んで下さいました。弟さんにすぐ連絡を取り、職員も二人添乗して行きました。当日休みだった職員も多く駆けつけ、なす術も無いことながら、無事に蘇られることを皆で祈りましたが、その数時間後、病院でお亡くなりになったと、連絡がありました。

病名ははっきりと示されませんが、状態を聴かれたベテランの婦長さんが「ほぼ間違いない、心筋梗塞だと思います」と聴かせて下さいました。

ご葬儀に管理者が伺ったところ、弟さんご夫妻から「家にいるよりも、皆さんにどんなに良くして戴いたかわかりません。殆ど歩けなかったのが、押し車を押しながらゆっくりでも一人で歩けるようにまでなりました。これから先、このような事が何度か起こるかもしれませんが、職員の皆さん、どうか頑張ってください」と、逆に励ましのお言葉を戴きました。





また、この方が亡くなられた翌日の朝、女性の入居者の方の様子がおかしいとの連絡を受け、施設長がすぐ行ってみました。朝になっても起きてこられず、話しかけても意味不明のことを呟かれ、明らかに右半身が反応しません。夜中に脳梗塞でも起こされたのではないかと考えられ、すぐに救急車の手配を致しました。この方は今までも多発性の脳梗塞の既往があり、病院でやはり脳梗塞と診断されました。世間で言う「三番中気」だったそうです。

回復しても右半身不随になり、車椅子の生活になると言われ、ご家族から退所される旨連絡がありました。「家族以上に良くして戴いて有り難かった」と、娘さんから、丁重な感謝の言葉を戴きました。

このような事から、更に命をお預かりしている現場なのだという緊迫感が職員の中にも充填され、緊急時の対応についてもデイサービス職員と共に勉強会を開き、慌てず騒がず心静かに、なすべき事をきちんとやれるように、具体的訓練を行っています。

先に書かせて戴いた、心筋梗塞で倒れた方の時に、経験のある職員がすぐに対処したのですが、側にいても怖くて何も出来なかったという新人の職員が、「もっと自分は冷静に対処出来ると思っていました。でも手足がすぐんで何も出来ませんでした」と自分を反省し、亡くなられた方に、「絶対に先輩のようなプロになります！」と泣きながら誓っておられました。

翌日、その職員は自分にはつきりと決意させて下さった事に感謝し、その方のお部屋の床を『有り難うございました』と呟きながら、心を込めて磨き上げておりました。

亡くなられたことは残念な事ではありましたが、この方が常々私達に向けて下さっていた感謝の気持ち、こうして私達の意識に大きな大きな置きみやげを残して行って下さったのだと、改めて深く感謝致しました。

これからも一つ一つの出来事から、職員全員で考えて、一歩ずつ進んで参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



厨房職員紹介

＊ ＊皆様からの『美味しかったよ』の一言が、私達にとって何よりの喜びです ＊ ＊

＊ デイサービスセンター翠風園にお越し下さる利用者の皆様のお食事を調理職員（西村・白井・酒井）の三名が交代で作らせて戴いております。栄養士のたてた献立の元、利用者様が召し上がって喜んで下さる顔をイメージしながら、三人で楽しく工夫を凝らして調理しております。

『見た目綺麗で食べて美味しく、栄養満点』を目指し、昼食・三時のおやつは全て手作りでご用意しております。

＊ お陰様で翠風園の食事は利用者の皆様に大変ご好評戴いておりますが、利用者様は白根の自然の恵みと、手作りに込められた『愛』を感じ取って下さるからだ、と大変嬉しく思っております。

ある日の事です。私が昼食が終わりかけた食堂に行くと、「押味さ～ん！」と大きく手を振りながら呼んで下さる利用者様がいらっしゃいました。私が近くに行くと、そのお方はニコニコされながら「いつも本当に美味しいです！ 今日本当においしかったです！ いつもいつも有難うございます。」とおっしゃって深々と頭をお下げになられました。利用者様と私達は『食』を通して愛と感謝のエネルギーをキャッチボールさせて戴いているのだなあ・・・と思いました。これからもこのキャッチボールを続けて参りたいと思います。



調理職員

白井まちなみ 西村香里 酒井佳代子



栄養士
押味美代子

皆様の御来園を
心よりお待ちしております。
厨房職員一同



＊ 食札に飾っている小物たちです。

3月：お内裏様＊お雛様



＊ フェルトで手作りの花でテーブルを華やかに彩ります。



＊ ちらし寿司と蛤のお吸い物でひな祭りらしく・・・



＊ 楽しい食事の一コマ・・・

毎日の献立を厨房職員がご説明いたします。



＊ 桃色が可愛らしい手作りの桜もちです！！